



歴史の道・長崎街道



〈長崎街道とは〉 江戸時代に定められた、小倉-長崎間を結ぶ脇街道です。福岡藩内には「黒崎宿」「木屋瀬宿」「飯塚宿」「山家宿」「内野宿」「原田宿」の宿場があり、筑前六宿とよばれています。

〈直方と長崎街道〉 直方を通る長崎街道は、木屋瀬宿から感田村、下境村・赤地村を通り小竹へ続いていました。直方藩内の通行が禁止されていたためです。しかし直方廃藩後、直方の町の衰退は著しく、町年寄の庄野仁左衛門らは、通行の妨げとなっていた岩鼻の岩山を開削し、長崎街道が直方の町中を通るようお願いしました。享保2年(1736)長崎街道は感田村から頓野の渡して川を渡り、古町・新町を通り、尾崎から小竹へと付け替えられ、以後直方は街道の町場として発展していきます。



街道と農民

当時は旅人の身分によって、宿場の処遇が決められていました。諸大名・長崎奉行・日田郡代の通行など、多くの人馬が必要になる場合は、宿場だけでは間に合わず、郡役所・大庄屋から「助郷」(すけごう)として近村に馬・人足の割り当ての触れが出され、農民は安い手当てで出役しなければなりません。

万延二年の触書には大庄屋から、必要数人足 1350 人、馬 300 頭。その内、植木触に 350 人・馬 85 匹 上境触に 450 人 馬 85 匹 金生触に 550 人 馬 130 頭 の割り当てが出されています。また街道の整備も割り当てがなされ、華やかな大名行列も農民にとっては大迷惑でした。

直方市史 上巻 NL219 ノ

長崎街道 1 図書出版のぶ工房編 N 291 ナ

伊能図で甦る古の夢 長崎街道 河島悦子/著 N 291 ナ

筑前名所図会 奥村玉蘭/著 NL 291 ケ

直方あの頃

昭和3年～昭和5年

今年は、ディズニーキャラクターのミッキーマウスが誕生してから90年が経ちました。そんな1928年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょうか。また、この年は、どんな年だったのでしょうか

昭和3年(1928年)

9月 直方町立図書館開館
この年、アラビアの唄が流行

昭和4年(1929年)

6月 直方新橋竣工
この年、東京行進曲が流行

昭和5年(1930年)

12月 上水道工事完成
この年、ロングスカートが流行し始める



長崎街道を歩いた人々

長崎街道は、当時唯一開港していた長崎へ通じる道であり、武士だけでなく、外国人、商人、文化人など多くの人々が行き交いました。

長崎の出島にいたオランダ人のケンペルやシーボルトは、江戸参府の折りに長崎街道を通りました。ケンペルは直方について「藩主の城には天守閣がないが、これは珍しいことである」と記しています。幕府の官僚で江戸の狂歌師でもあった、太田蜀山人は文化元年に長崎奉行所赴任のため、長崎街道を通行し、直方の日若祭りの笠鉾について記述しています。また画家の司馬江漢は、木屋瀬から飯塚への道中の風景が錦のようだったと「西遊日記」にしたためています。

維新の志士もこの街道を通りました。長州藩の吉田松陰は、修行のため筑前六宿を經由し、長崎、平戸へ向かいました。軍学者らしく各宿場の構口を見分し、小竹では「小竹車」とよばれる石炭運搬車も見ています。

長崎街道は、人の往来だけでなく、珍しい動物や砂糖、外国の物産も広がっていく、文化の街道でもありました。

『長崎街道』 国土庁 N219 ナ
『長崎街道を行く』 松尾卓次/著
N 291 ナ



はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっといただくきっかけになればと思っています。

今回は、直方郷土研究会の鴻江敏雄氏が自費出版された本をご紹介します。

この本は、鴻江氏が長い年月をかけて収集された、戦前の直方を写した絵はがき 107 枚を一冊の本にまとめたもので、鴻江氏のご厚意により、当館に寄贈してくださいました。

『直方のむかしの絵はがき』 N748 コ

直方市立図書館

直方市山部 301-1 コメニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>